

令和4年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 7月25日(月)

会場: 八次コミュニティセンター

参加者数: 25人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>道幅が1mの範囲しか草刈りの助成対象にならない。対象ではない箇所については、個人が費用負担しており、条件にあう箇所は、市が対応するように検討していただきたい。</p>	<p>市道の草刈りについては、業者に委託する部分と、地元や自治会などに対応していただく部分などがある。草刈りは、重労働で、危険な作業である。ジモティーの取組を導入することにより、潜在的な草刈りをしたい人を活用できる可能性がある。課題を洗い出ししながら、市道の維持管理について更なる工夫をしていきたい。市道は、約3,600路線、総延長距離として1,800kmである。限られた財源の中で、市道の維持管理をするために、実証実験を通して、様々な課題を解決していきたい。</p>	<p>【ジモティーとは】 ジモティーは、株式会社ジモティーが運営する地域の情報サイト。カテゴリー別に、利用者の目的に応じて分類された情報が掲載され、利用者は無料で情報交換をすることが可能。 今回の三次市における実証事業は、草刈りの労働力を必要とする地域住民と作業を手伝える方のマッチングを促進する実証事業の実施として、全国初の取組である。</p>
<p>市担当課から、高齢者肺炎球菌予防接種の案内通知があった。対象者は、予防接種に対する助成を受けることができる。しかし、対象は、初めてこの予防接種を受ける人に限られており、過去に予防接種を受けたことのある人は助成の対象とはならない。数年前に、自分の持病を考慮して、夫婦で1万6,000円のお金を払って、肺炎球菌の予防接種を受けた。予防接種を一度受けた人は、2度目以降についても助成の対象外である。これでは、公平性を欠くのではないか。ほかの方法を考えていただけないか。</p>	<p>肺炎球菌ワクチンについては、いかに公平性を担保しながら、市民の皆さんに接種をしてもらうかが基本となる。その基本原則に沿いながら、助成基準の中で、予防接種体制を進めている。公平性を欠くような面があるかどうか、国の動向なども注視しながら、検証していく。</p>	
<p>公道から八次コミュニティセンターに入ってくる通路はかなりの傾斜になっており、注意をしなければ、車の底を擦ってしまう。傾斜を緩やかにできないか。</p>	<p>進入路の段差については、自治連合組織から相談を受けている。先日、現地確認をしており、具体的な対応について検討している。</p>	<p>対応済</p>
<p>・月1回実施している認知症カフェに行きたいが、交通手段がないという方がいる。タクシーを使用してまで行こうとは思っておられず、現在は送迎している。交通手段を確保することはできないか。 ・加入するメリットがないということで、常会員などが減っている。行政による対策はないか。団塊世代の者ばかりであり、今後、誰が引き継いでいくのか、心配である。</p> <p>【市の回答後】 ・高齢者が自宅から移動することが困難になってきており、今後も増加していく。制度を整備しているということだけではなく、もう一歩踏み込んでいただき、課題を洗い出ししながら、取組を進めてほしい。 ・自治会への加入を促すために、八次連合自治会でもパンフレットを作成し、全戸配布をしているが、なかなか共鳴してもらえない。行政側からもアプローチしてほしい。</p>	<p>・高齢者の方の移動手段を確保するため、相乗りタクシー事業という制度がある。バス停や駅から遠い地域の方を対象としており、公共交通としてバスの代わりにタクシーを複数人で利用された場合に、料金の一部を助成している。常会単位の申請が必要で、常会の中心から最寄りのバス停などまでが、1km以上離れた地域に居住する方が対象である。1kmから2km未満の場合は年3万円、2km以上は年6万円といった、距離に応じた助成制度である。ただし、高齢者にとって、1kmを歩くことは現実的には大変であるという声もあることから、再検討していく。 ・特に市街地では、常会への加入が大きな課題になっている。特効薬はなく、住民自治組織連合会が、常会加入のメリットを記載したパンフレットを作成し、住民に配布する取組をされている。常会未加入者に地域行事へ来ていただくための取組や声かけをしていただき、地域とのつながりをつくるのが一つの方法であると思っている。</p>	

令和4年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 7月25日(月)

会場: 八次コミュニティセンター

参加者数: 25人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>今年3月、精密検査を受けるために三次中央病院に行ったところ、初診が休止されていた。休止理由を質問しても、答えていただけなかった。三次中央病院における、コロナの具体的な予防対策を知りたい。病院入口で消毒をして体温を測っている。しかし、初診では4時間ぐらい待合室で待つことになり、その間、患者同士が話をする。その場に感染した人がいた場合、次に来た人が感染することになる。待合室への消毒液の設置を職員に伝えただが、その後の対応状況はどうなっているのか。今のオミクロン株は近いところまで広がっている。手でウイルスを運ぶことが大半であるから、対応をしっかりとしてほしい。これまでもコロナの対策会議を多く開催されているが、改善されていない。</p>	<p>三次中央病院は、日本医師会のガイドラインに基づいて、コロナ感染対策を実施しているが、感染者をゼロにすることは難しい。引き続き、どのような感染対策を講じているのか確認し、今後、医療が逼迫することで、受診できない状況にならないように、万全の対応をしていきたい。三次中央病院に限らず、どこの病院でも、コロナ対応には非常に苦慮をされている。地域の安心・安全というのは、普段通りの医療を受けることができることであるから、引き続き、努力をしていく。</p>	
<p>基幹避難所が、八次中学校から八次コミュニティセンターに変更されたが、この学園通りには、街灯が非常に少ない。中学生がクラブ活動をして帰る時には暗いし、いざ避難をする際に、暗い道を避難することになる。危機管理という視点で、街灯を設置していただきたい。これまで、市に相談してきたが、常会で申請してもらえれば、対応できるということであった。この学園通りには、常会に加入されていない方や常会のないところがあることから、申請できない状況である。安全確保のため、住民の皆さんが集う場所に行くための道路にも、公費で街灯を必要な箇所につけていただきたい。</p>	<p>学園通りには街灯がほとんどない状況にあることは認識している。全ての場所に設置するには、多大な予算が必要となるため、常会の方に協力をいただき、防犯灯を各所に設置していただきたい。また、蛍光灯をLEDに替える場合には、補助をしている。基本的な考え方として、防犯灯の意味であれば、常会で設置・管理をお願いしたい。学園通りは、多くの子どもたちが通学しており、今後、住宅が増えていけば、状況も変わってくることから、検討課題にさせてもらいたい。</p>	
<p>・JR三次駅の建物や駅前に、記念写真を撮る景色がない。駅舎の上に、鶺鴒などの模型を置くのはどうか。 ・尾関山トンネルを活用して、お化け屋敷的なものにして、夏休みなどに子どもを連れて行ける場所にしたらどうか。三次もののけミュージアムから、尾関山トンネルに通じるルートを整備する。 ・長土手をボートで遊べるようにすれば、若者が楽しめると同時に、道路を通る人にも楽しい町だと知ってもらえるのではないかと。 【市の回答後】 ・三次駅前のモニュメントを、「鶺」とわかる人が何人いるのか。もっと良いものにして、三次駅前を整備した方がいい。 ・尾関山トンネルは、関係団体に任せるだけではなく、行政による積極的な取組が必要である。</p>	<p>・川と親しみながら歴史を刻んできた本市にとっては、重要なことであるが、長土手を活用するには、漁業協同組合との交渉や国土交通省の許可が必要である。川で親しみ、遊ぶという観点では、三良坂の灰塚ダムの利活用を進めている。湖面でのカヌーのみならず、ハイヅカ湖畔の森にあるキャンプ場のリニューアルやコワーキングスペースの整備を進めてきた。自然空間をしっかりと活用して、滞在時間の延伸に結びつくような取組を、地元の皆さんや外部の専門家の方も交えて検討している。長土手の川を活用するより、灰塚ダム一帯を活用することによって活性化に結びつける方が、現時点では取り組みやすいと考えている。 ・尾関山トンネルは、一般社団法人みよしSL保存倶楽部によって、イベント時に、トンネル内を案内したり、懐かしい写真を飾るなどの活用をしていただいている。旧尾関山駅に関しては、今年度、予算を確保し、活用方法の検討を始めている。また、三次駅前広場には、鶺と鶺匠のモニュメントや看板があることから、写真撮影をしていただきたい。 ・モニュメントは、鶺と鶺匠をモチーフに作られている。今のモニュメントが設置されて以降、後ろ向き意見が圧倒的に多いことから、今後の検討材料とする。尾関山トンネルの活用は、民間事業者や関係団体と連携しながら、三次市にしかできない、尾関山でしかできない取組につながるように、検討していきたい。</p>	
<p>四拾貫側を新鳥居橋のところから堰までの農業用水路に沿って、桜並木を作ってもらい、国道183号線からではなく、四拾貫町側から行けるようにすれば、ボートで遊ぶことも可能である。また、八次地区の活性化につながると思う。</p>	<p>河川区域内には制約があるため、検討させていただく。</p>	

令和4年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 7月25日(月)

会場: 八次コミュニティセンター

参加者数: 25人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>上畠敷地区は、昭和47年水害を受けて、山を削って山の上に家を建てている。バス停は農免道路にしかなく、バスから降りて、買ったものを持って歩くには、相当な負担がかかる。バスに乗る場所まで行くことが大変である。また、農免道路のバスも、1日4本にまで減らされている。そこで、1回でも2回でもいいから、布野地区や作木地区で実施しているコミュニティバスのような交通手段を検討してほしい。パチンコ店裏の地区も高齢化しており、予約制のコミュニティバスを出すなどしていただきたい。</p>	<p>地域公共交通については、それぞれの地域でどのような交通体系が利用しやすいかなどを、国の支援を踏まえながら、様々な見地から取組を進めていく。市全体の視点と、各地域における自治会の視点の両面から、対応していくことが大事である。布野地区では、グリーンスローモビリティという交通手段を実証実験している。他の地域でも、交通手段の確保に向けた取組が行われており、デマンド交通も、一つの選択肢ではないかと考えている。今後、利用者だけの問題ではなく、利用者以外が、地域の公共交通をどのように支えていくのかという意識を持つことが重要であると考えている。JRも、利用者だけで支えることができるわけではなく、利用者以外の方の関心が高いうちに、免許返納した後の交通手段などについて、検討を進めなければならない。今後、国の支援策の内容も踏まえながら、それぞれの地域の公共交通のあり方を検討していきたいと考えているので、自治会や地域の皆さんにも相談させていただく。</p>	